

共同礼拝

2024年4月21日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 徑米

奏楽 四宮真奈美

前 奏

招 詞 詩 編 68編20～21節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

詩 編 125編1～5節 (旧970)

マタイによる福音書21章28～32節(新41)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 3

説 教 「義の道への答え」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 494

献 金

頌 栄 539

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

4月の祈り

主イエスの復活の光に導かれ、この世の栄えではなく信仰によって見出される恵みの光を仰ぐ歩みを進めることができるように。

礼拝と祈祷会を重んじる教会生活を大切にし、身に付いたものとなるように。

新年度の歩みが御心に導かれるように。

高齢や体調などにより礼拝に集うことがかなわないでいる兄弟姉妹たちを覚えて。

震災の地の教会と人々を覚えて。戦争と紛争の地に平和がもたらされるように。

今日の祈り

礼拝が、主の導きにより、整えられ、御言葉に集中するものとされるように。御言葉によって教会の伝道と全ての働きが力づけられるように。

病の中で不安を負っている人々に支えのみ手が与えられるように。

「義の道への答え」 高橋和人

マタイによる福音書21章28～32節

主イエスは信仰の健やかさを求めておられる。信仰をいつも新しく、そしてより深いものにして行くためには、主イエスが求められるものを受け止めることになる。

主は神殿で教えられた。主を問うものたちに主は問い返された。問い問われることが信仰を育てる。

主の論争は敵対者を論破するためではない。むしろ教えられる。取り囲むものたちは、主の問いに引き込まれていた。主が問われることは弟子たちも問われることとして受け止め記録され残された。

神殿の管理者たちはヨハネが「天からのものか、人からのものか」の問いに答えることができなかつ

た。人を恐れたためであった。

主イエスはくりかえしこの問いを問われた。それは今でも信仰者への問いになっている。そして、主イエスの問いを受け止め、考えることは信仰者の歩みとなる。

問われていることを見極め、考え、祈り、導いてくださること求め、恵みを知り、立ち帰ることが信仰の道のりを形作っている。それは主が導いてくださることに信頼しているゆえのことになる。

このたとえで父親は息子の兄の方におどろ園に行つて働くようにいう。兄は断つたが思い直して働きに行つた。弟に言ったが弟は承知したが行かなかつた。主は「どちらが父の望み通りにしたか」と問われる。

二人とも素直に聞き、素直に働いたわけではない。神の前の人の態度が現れる。拒否していたものが働くものとなり、受け入れると言っていながら働くことがなかつた。人はそのどちらかであるか、あるいは両方だ。人は迷い、定まらない。しかし、後で考え直すことができる。

彼らは考え直しておどろ園に出かけた「兄の方」と答える。すると主イエスは徴税人や娼婦たちの方が先に神の国に入ると言われた。それは信仰深いものと自認する生き方ができなかつたが、ヨハネの悔い改めを受け入れるからだ。

ヨハネの示した義の道は信仰に先んじたものではなく、後からのものに開かれた。そしてこの義の道を歩まれるのは十字架を負われる主イエスだ。考え直して、信じる。ルターはイエス・キリストが「悔い改めよ…」と言われたとき信者の全生活が悔い改めであることを望まれたのだという。そこに十字架の主の恵みの道が開かれている。